



熊本市 感染症発生動向調査 速報



RSウイルス感染症で入院するお子さんもみられます。特に乳児の早い時期は重症化しやすいので注意が必要です。

●RSウイルス感染症

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0～1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染するといわれています。

◆どんな病気？

・症状……鼻水、発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いといわれています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいといわれており、特に乳児の早い時期（生後数週間～数ヶ月間）に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

・潜伏期間…2～8日程度（典型的には4～6日）

・感染経路…感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物（手すり、おもちゃ等）を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。

・流行期……例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。

◆かかったらどうすればいいの？

・特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

◆予防法は？

・手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保ちましょう。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。

・重症化のリスクの高い乳幼児には、医師の判断のもと、重症化を予防するためにパリビズマブという薬を使用する場合があります。



期 間		平成30年 35週		平成30年 36週	
		8/27～9/2		9/3～9/9（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1	0.04	0	0.00
RSウイルス感染症		51	3.19	40	2.50
咽頭結膜熱（プール熱）		2	0.13	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21	1.31	20	1.25
感染性胃腸炎		57	3.56	74	4.63
水痘（みずぼうそう）		4	0.25	4	0.25
手足口病		15	0.94	17	1.06
伝染性紅斑（りんご病）		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		7	0.44	11	0.69
ヘルパンギーナ		24	1.50	24	1.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		2	0.13	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		22	4.40	14	2.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		2	0.40	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00